

## 株価の急騰する条件を備えた銘柄群とは？

皆さんは、株価の急騰する銘柄の条件というものをお調べになったことはあるでしょうか？調査には様々な切り口があるでしょうが、今回は年間騰落率上位銘柄に高い確度で備わっていた条件をご紹介します。その条件とは、ずばり“利益の急激な伸び”です。年間騰落率トップ10の中に当該条件が含まれる確率は7～8割程度。銘柄カルテでは、四半期経常利益の成長評価で簡単に把握できますのでご確認下さい。

下記は第1四半期決算の利益急騰銘柄です。富士重工<7270>、東京特殊電線<5807>などが、テクニカル点数の状況・勢いも良いようですね。

コード	社名	今1Q経常利益 前年同期比	前4Q経常利益 前年同期比	総合判定 8月8日
8018	三共興	8066.7%	-1831.9%	B+
7270	富士重	1030.5%	5.8%	A-
5807	東特線	950.0%	-116.1%	A
5009	富士興	665.8%	210.6%	C+
5566	中央電	552.6%	253.7%	A-
7211	三菱自	530.4%	86.6%	B-
6952	カシオ	423.6%	-21.4%	B
1973	NECネSI	351.3%	3.9%	B+
8193	鈴丹	339.3%	-47.0%	B
7414	小野建	261.5%	14.1%	B+

### 東京特殊電線<5807> 195 -4

[http://www.laqqo.com/login/analyze/karute\\_funda.php?code=5807&marketid=1](http://www.laqqo.com/login/analyze/karute_funda.php?code=5807&marketid=1)

電線中堅。細線から電子機器、光周辺装置も手掛けています。医用画像表示ディスプレイを育成中。7月31日に発表された第1四半期決算は、経常利益が前年同期の400万円に対して4,200万円と急伸。もともと第1四半期は季節変動の影響で赤字となりやすい時期だけに、勢いの強さを感じさせる決算内容と言えるでしょう。薄型テレビの需要増に伴う内部配線材が好調に推移した他、光通信への設備投資拡大による光アンプ・光加工品の伸びが寄与しました。

その第1四半期決算だけでなく、銘柄カルテでは次の四半期(同社の場合は第2四半期)の前年同期数値にも眼を通しておくこと銘柄選別の確度が上がるでしょう。同社の第2四半期における前年同期の数値は1,400万円の赤字。つまり、黒字さえ確保できれば、黒字転換企業とみなされることとなります。超えるべき利益のハードルが極めて低い点も魅力であると言えるでしょう。